

## 福山 美季 氏の学位論文審査の要旨

### 論文題目

Factors influencing the decision-making of elderly acute leukemia patients in Japan  
regarding their treatment  
(急性白血病の高齢患者の受療に対する意思決定プロセスとその影響要因について)

わが国において、急性白血病の発症時期のピークは高齢期である。しかし、受療に関して、白血病の高齢患者がどのように意思決定を行っているかに関する研究はほとんど行われていない。医療者が、よりよい意志決定支援を行うためには、白血病の高齢患者の意志決定プロセスを明らかにする必要がある。本研究では、急性白血病の高齢患者の診断時から受療を決定するまでのプロセスとそれに影響する要因を明らかにすることを目的とした。

研究方法としては、半構造化インタビューを、初発の急性白血病の高齢患者 22 人に対して実施した。逐語録を修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析を行った。

研究の結果、急性白血病の高齢患者の意志決定のプロセスは、“告知時の初期反応”・“気持ちの切り替え”、そして“治療を医師に一任する”という 3 つの段階から構成されていた。“告知時の初期反応”では、病気や治療法に圧倒されるという概念が抽出され、言語的支援を含む医療者や家族の気持ちの安寧をはかる関与が、これを軽減していた。“気持ちの切り替え”には、医師や家族による受療の推奨と対象者自身の内面的な動機づけの 2 つが影響していた。また、対象者は、安心感を得たいという願望と難解な医学情報を望まない態度から、医師を完全に信頼し治療方針を一任していた。

以上の研究結果より、医療者の関与が白血病の高齢患者の意志決定を促進していた。また、意志決定への支援を行う上で、医療者は高齢患者の信条・自負心・役割への責任感といった個々の価値観を知り、家族を含めて意志決定をしたほうがよいことが明らかとなった。また、高齢患者は、医師に全幅の信頼を寄せ安心感を求めていた。

審査では、1. 対象者のインタビューの時期、2. 対象者の体力差、年齢を考慮した解析、3. 他の文化圏との相違、4. 死に対するとらえ方の若年者との相違、5. 高齢者へのバッドニュースの伝え方についての考察、6. モデルの妥当性と研究者バイアスなどについて質問が行われ、申請者からは概ね良好な回答が得られた。

本研究は、白血病に罹患した高齢患者の意思決定プロセスを明らかにし、医療者の患者支援に関する有用な知見を提供した研究であり、学位の授与に値すると評価した。

審査委員長 公衆衛生学担当教授

かの藤原秀